

## 実施期間・場所・対象等

期間：令和元年6月1日～30日頃を予定（実施状況を踏まえ、実施期間を調整）

場所：①武蔵境自動車教習所 ②豊島自動車練習所  
 ③中央自動車教習所 ④平和橋自動車教習所  
 ⑤茨城県運転免許センター（茨城県交通安全協会が実施）

対象：高齢者講習を普通自動車を受講する予定の約300人（分類ごとに次の人数以上を想定）  
 ※ 参加した被験者は高齢者講習を受講したものとして取り扱う。

有効期間満了時75歳以上（認知機能検査受検者）			有効期間満了時 70歳以上75歳未満
第1分類	第2分類	第3分類	
25人	50人	100人	100人

## 実車指導の実施課題

- ・現行のチャレンジ講習における課題（特別課題・参考課題を除く。）を実施（1回当たり10分程度）
- ・違反状況等の指導やドライブレコーダーを活用した個別指導を挟み、全部で課題を3回実施し、それぞれの違反状況等をチャレンジ講習に準じて評価（違反の回数等を記録・採点）

総走行距離	1,200m	信号通過	1回以上
周回カーブ	2回以上	横断歩道の通過	1回以上
指定場所における一時停止	1回以上	曲線コースの通過	1回
右折	1回以上	屈折コースの通過	1回
左折	1回以上	方向変換	1回

# (参考)チャレンジ講習の概要

## チャレンジ講習とは

### 【対象者】

普通自動車を運転することができる免許を有する者で、更新期間満了日における年齢が70歳以上の者(75歳以上は、認知機能検査の判定が第3分類の者に限る。)が対象

### 【内容】

下記の一般課題・特別課題を実施し、70点以上だった者は、60分の簡易講習(講義及び夜間視力等の検査)を受けることで、高齢者講習の受講を免除。

※ 70点未満の者は通常の高齢者と同様に、高齢者講習(2時間)を受講

### 【受講実績】

平成30年中の75歳以上のチャレンジ講習受講者は、59人(このうち、70点以上だった者は、54人)

## 実施課題

- ・1人当たり10分程度、総走行距離1,200mの実車走行を行う。
- ・一般課題・特別課題のほかに、参考課題として、急制動を実施する。(採点対象外)

一般課題		特別課題
周回カーブ	信号通過	パイロンスラローム (コース上に置かれた 5本の障害物の間を、 S字状に通過する)
指定場所における 一時停止	横断歩道の通過	
	曲線コースの通過	
右折	屈折コースの通過	
左折	方向変換	

↑  
実車走行実験で実施

↑  
実車走行実験  
では実施しない

別紙様式1  
チャレンジ講習評価票

氏名	年齢	性別		100- ( ) =	担当
		男	女		
減点率	3.0	1.0	3		
減点項目					
安全確認		発進、後退、周回 巻き込み、変更、 交差点、後方、脇 見、降車			
制動	補助ブレーキ				
操向	通過不能、補助ハンドル				
車体感覚	脱輪大、脱輪小、安全間隔				
通行区分	右側通行				
直進、右左折	信号無視、進行妨害、一時 不停止				
歩行者保護	横断歩道				
スラローム	1回目 ( ) 秒 2回目 ( ) 秒				
減点小計		3 × 時間超過 ( ) 秒			

採点表

# 実車走行実験の内容

## 【実験の流れ】

## 【課題の目的・態様】

<p>座学【約30分】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロックチャートによる視野測定</li> <li>・双方向型ではない態様(DVD等を活用)</li> </ul>	<p>→視野検査を実施する必要性を簡易に判断できるか分析 →講義形式によっても十分な理解度が認められるかどうか分析 (同時に多人数が受講しても支障がないかどうか検討)</p>
<p>運転適性検査器材【約30分】</p>	<p>※現行の高齢者講習と同様の態様で実施</p>
<p>・最初に日時・場所等に関する質問を実施 実車指導(1回目)【約10分】</p>	<p>→認知機能検査を実施する必要性を簡易に判断できるか分析 →走行後に、注意点を指導</p>
<p>実車指導(2回目)【約10分】</p>	<p>→1回目の走行後に指導を受けたことによる、改善の有無・程度について分析</p>
<p>ドラレコ映像を活用した個別指導【約30分】</p>	<p>※現行の高齢者講習(3時間講習)と同様の態様で実施</p>
<p>実車指導(3回目)【約10分】</p>	<p>→ドラレコ映像を活用した個別指導を受けたことによる、改善の有無・程度について分析</p>
<p>(第1分類・第2分類の者のみ) 映像教養【約30分】</p>	<p>※現行の高齢者講習(3時間講習)と同様の態様で実施 (高齢者講習を受講したものとして取り扱うため)</p>
<p>アンケート調査【約30分】</p>	<p>→被験者の運転経験等のほか、実験の負担感等を聴取 (違反歴、事故歴、運転経験等による比較)</p>

# 実車指導の評価

## 【評価票のイメージ】

評価票（案）

①・②・③ 回目

番号	名前	年齢	区分
A-3001	警察 太郎	80	75歳未満・ 第(1・2・③)分類

確認項目		コース図
安全確認	発進、後退、周囲、 巻き込み、変更、 交差点、後方、脇見、降車	
制動	補助ブレーキ	
操向	通過不能、補助ハンドル	
車体感覚	脱輪大、接触大、安全間隔	
通行区分	右側通行	
直進、右左折	信号無視、進行妨害、 一時不停止 (超過・不停止)	
歩行者保護	横断歩道	
その他	<p>(確認項目には該当しない危険な行為や、その他気になる点があれば記載)</p> <p>こちらの左折の指示を理解できず、直進しようとした。</p>	

違反等の内容、  
回数等を記録

違反等をした場  
所や課題の内容を  
記録

そのほかの特異事項(危険な  
運転行動等)を記録

## 【日時・場所等に関する質問】

次の質問を口頭で実施し、回答を記録する

→ 認知機能検査の結果と併せて分析  
(認知機能検査の対象者を絞り込むことの可否を検討)

### 【質問項目 (案)】

(時間の見当識)

- 「今年は何年ですか。」
- 「今月は何月ですか。」
- 「今日は何日ですか。」
- 「今日は何曜日ですか。」

(記憶機能)

- 「あなたの誕生日はいつですか。」

(場所の見当識)

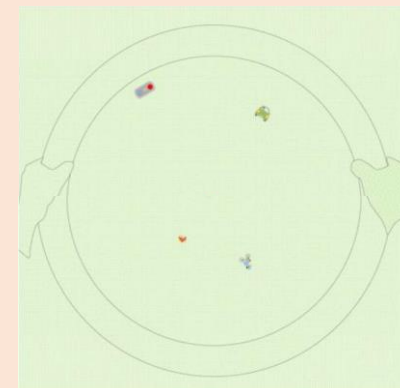
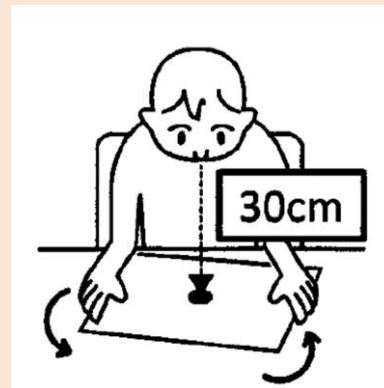
- 「ここは都道府県でいうと何ですか。」
- 「ここは何市(町・村・区など)ですか。」
- 「ここはどこですか。(この施設の名前は何ですか。)」

## 【クロックチャートによる測定】

クロックチャートによる視野欠損の測定を被験者に実施させ、次の点を確認する

- ・見えなくなる図形(視野欠損)の有無
- ・受講者が測定方法を理解できるか
- ・実施に要する時間

→ 水平視野計の測定結果と併せて分析  
(高齢者講習で実施することの可否を検討)



## 【被験者に対するアンケート】

### 【運転経験について】

- ・「何歳くらいの時に初めて普通免許(4輪の自動車を運転するための免許)を取得しましたか。」
- ・「過去3年の間で、事故・違反があれば、分かる範囲で教えてください。」

### 【クロックチャートについて】

- ・「検査のやり方は分かりましたか。」 等

### 【座学について】

- ・「テレビの映像等を使った授業を行いました。この内容はよく分かりましたか。」 等

### 【実車指導について】

- ・「今回実施した課題の難しさはどう感じましたか。」 等

## 【講習指導員に対するアンケート】

### 【指導経験等について】

- ・「これまでどれくらい高齢者講習に従事していますか。」
- ・「技能検定員の資格を持っていますか。」

### 【座学について】

- ・「双方向型講義(質問等を行う態様)を実施していますが、これと比較して、今回実施していただいたDVD等を用いた講義(双方向型ではない講義)の負担はどうでしたか。」 等

### 【実車指導について】

- ・「今回実施していただいた課題(5~10分程度(1回分))の負担はどうでしたか。」
- ・「今後仮に、運転に支障がないかどうかを確認する制度が導入されるとすれば、その評価をするためには、今回実施していただいた課題(5~10分程度(1回分))で十分でしょうか。」 等